

令和6年度国際医療専門学校 自己点検自己評価全体まとめ

1. 目的

本校では、「自己点検・自己評価」を行うことで、教育理念の基に教育目的がどのように達成されているのか、また二科を有した医療系専門学校としての水準をどのように維持・向上させているのかを明らかにし、教育の質の維持・向上を図ることを目的としている。

2. 実施方法

評価項目は「学校経営」「教育課程・教育活動」「入学・卒業対策」「学生生活への支援」「管理運営・財政」「施設設備」「教職員の育成」「広報・地域活動」の8項目について、全教職員を対象に各自が自己点検自己評価したものを集計した。8項目の細目に関しては、令和5年度は、40項目であったものを令和6年度は55項目に増やし、より細分化し、更に教務部（看護学科、臨床検査学科）、事務部もほぼ同様の評価項目細目で評価できるように見直した。令和5年度の評価項目細目が令和6年度の細網に全て含まれ、令和5年度自己点検・自己評価と比較できることを学校管理運営会議にて確認している。評価の尺度は、良い（5点）、やや良い（4点）、普通（3点）、やや不十分（2点）、不十分（1点）の5段階評定とした。

3. 令和6年度総括

今年度の評価は前述のように、8項目の細目は、40項目を55項目に増やした。そのため各部門には評価内容について理解を促すための説明を行い、周知を図った。これによって職員一人ひとりが学校運営や教育のあり方について細かく評価できたと考える。

特に評価項目の、学校経営、学生生活の支援、施設設備、教職員の育成では全体の平均が高値を示した。課題であった教職員の共通認識については、全教職員会議等が充実し、課題解決に対する取組みが教職員全体に認識が高まったことが高評価に繋がったものと推測した。それぞれの項目の役割活動が連携し好循環した結果、看護学科の定数以上の新入学生の確保 学内予測以上の国試合格者を評価した結果を得ることができた。これらの高評価は、学校運営目標1-1)に基づいた活動が出来ていると評価した。

学科ごとに見ると、看護学科は、ほぼすべての項目において昨年を上回る結果を得た。

一方、臨床検査学科は半数がほぼ昨年度と同様であり、その他の半数は昨年度をやや下回る結果となった。令和5年度の課題や具体策の不明確な点や新入学生確保の困難に伴い入学・卒業対策や広報・地域活動は各項目が連携業務として評価した結果、低値になったと思われる。

更に、学校運営の重要目標指標である国家試験の合格率100%達成を掲げている。看護学科の国家試験合格率は、令和6年度は97.3%から93.8%と低下し、全国平均を下回る結果ではあったが、初めての定員80名の卒業年度の学生数に対して教員の努力奮闘は評価したい。臨床検査学科は令和6年の合格率86.8%に対して、今年度は92%と上昇したが、全国平均より下回る結果となる。看護学科は、学生数が増加している中で、国家試験年計画対策は学生一人ひとりに対応する教員の負担増も課題であり、今後は選定した講師依頼や個別指導を充実させた学習支援システムの見直し・導入を検討し、計画的に効果的な試験対策を進め合格率の向上を目指す。臨床検査学科は、旧カリキュラムでの最後の学年となり、

成績が伸びない学生は教員全員による個別対応で、成績向上に繋り合格に達した学生もあり、目標値に到達した。旧カリキュラムは新カリキュラムより総時間数 590 時間多いカリキュラムである為、個別対応に余裕がない部分も課題であった。今年度は新カリキュラムになり個別対応の時間を確保でき、両科同様に個別指導を充実させ、学習支援システムを見直し、効果的な試験対策を実施できる学習環境を整との得る必要がある。

両学科ともに昨年度を上回ったのは、学生生活への支援であり、令和 6 年度に設置した学生サポート部が機能し始めた結果と思われる。就職活動において、両学科と学生サポート部が多様な学生に対して個々に必要な指導を行った結果、両学科高い就職率を得た。早々に始まる看護科の就職活動に対して 6 月に 1、2 年生を対象に学内病院就職説明会を実施している。検査学科は看護学科に比べると、求人票が遅く出る要因もある為遅めの出足ある。今年度は看護科の就職活動に沿った動きが検査学科教員の意識改革にも効果的に働いた。

就職支援体制の課題としては、両学科の教員とサポート部の役割分担の不明瞭な部分があった為に、定期的に一部の教職員に集中したことは、運用の工夫や役割分担を明確化が今後の課題とする。それには、教務と学生サポート部が定例連携会議を実施する事で互いに、学校運営状況を確認しながら問題を共有し早期解決に繋る事が効果的であると考え。学生、職員両者による学校運営と捉え、学校の発展への糸口とも考え重要に考える。

次に精神的支援の取組みとして、school カウンセラーが年間相談窓口を設置し、新入生全員が担任やカウンセラーと面談を実施している。

また、継続的に授業に参加する体制を整え、学生との距離感を縮める工夫を行い、カウンセラーが近い存在に位置することで継続的に介入が出来、早期に問題の把握や、解決に結びつき安定した学生生活を継続していく支援の広がりや教職員も認識でき評価に繋がったと考える。以上の学生支援体制の強化については学校運営目標 1 の要点に沿った成果と捉え、課題解決を見出しながら学校運営が始動してきていると評価する。

加えて内部評価に留まらずに令和 6 年度から外部第三者委員会として専任専門家、学校関係者、病院関係者、卒業生を評価者に迎えて、意見交換を行い学校関係者自己評価の結果から課題解決に向けた、アドバイザリーボード委員会を発足して活用している。学校自己評価結果の課題の課題解決の方向性を見出し、職員が気づかない本校独自の強みを認識し、発信を行っている。更に近隣の高校、そして地域住民との関係を強化していく等の意見を具体化して来た。引き続き委員会からの意見を活用して、継続的に改善計画を実施できる学校運営を組織化してきた。これらの委員会からの評価も含め統括的に当法人に報告し、今年度の事業計画に反映し推進している。また、3 月に行われた県看護師養成所実地調査において指摘、指導事項等はない運用状況である事も確認した。

評価項目																
1. 学校の理念や目的がわかりやすく教職員や学生、保護者に周知されているか																
2. 学校のビジョンおよびそれを実現するための目標と事業計画を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解され、教職員の提案を活かしているか。																
3. 目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。																
4. 組織運営や意思決定システムは明確で効率的であるか。																
5. 組織間、各部署間の連携は適切に図られているか。																
6. 運営会議の決定事項や各種委員会の決定事項は教職員に周知され、議事録は適切に作成・管理されているか。																
7. 学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、改善計画を策定しているか。																
8. 特色ある学校作りをすすめるために、教育内容の充実に努めるなど、学校独自のカラーをだしているか。																
9. 学校関係者評価の内容及び結果を学校関係者以外にも、公表しているか。																
10. 教職員の確保と質を担保するために、労働環境の整備を行っているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R5	3.9	R6	4.5	R5	4.3	R6	4.0	R5	3.3	R6	4.1	R5	3.8	R6	4.2
取り組みと課題																
【組織目標に関すること】																
学校全体																
・本校では、教育理念やビジョンが教職員の間で共有されており、年間目標や運営方針を教務室や事務室に掲示し、共通の方向性を持って取り組みを進めている。また、各種会議では、議題の検討や決定事項の経緯を記録した議事録を作成して共有することで、組織的な意思疎通の基盤が整い、課題達成に向けたシステムの構築が進んでいる。 ・一方で、教育理念や取り組みの成果について、検査学科では保護者会で説明し、学生にはガイダンスなどの機会を設けているものの、十分に伝わっていない点が今後の課題である。特に、説明の機会や時期、方法については、さらなる検討が必要である。また、職員に対しては、年度末の教職員会議で総括を報告し、次年度の運営目標を説明している。その結果、全体的な評価は昨年より微増しているものの、今後も継続的な課題として取り組む必要がある。 ・学校運営目標を基に部門目標を考慮し、それを達成するために個人目標を設定している。勤続年数や役職別に定められた到達目標に基づいて中間評価を行い、その結果を活用して管理職との面談を実施し、成果を評価している。 ・毎年、運営目標に基づいて事業計画書を作成し、改善計画を策定した後、法人理事会にて成果報告と評価を行う流れを構築している。																

【学校関係者評価に関すること】

- ・自己評価を基に学校関係者評価を実施し、6月末までに学校のホームページで公開し、広く閲覧できるようにしている。また、学校関係者評価委員会からの指摘事項を検証し、改善に努めている。

【組織運用に関すること】

学校全体

- ・両科が連携し、地域とのつながりを深める取り組みを継続しており、学校の特色や個性を生かした活動として、学園祭や地域の祭りへのボランティア参加を実施している。
- ・教職員間での日常的な情報共有の促進や、子育て・介護中の教職員が無理なく働ける制度やサポートは一段進んでは来たが、今後、持続的な改善と工夫を求める。教職員からの意見を吸い上げるための組織的な仕組みは徐々に整備されてきているが、誰もが気兼ねなく意見を出し合える雰囲気づくりには、心理的安全性を確保した職場環境の整備が欠かせない。そのため、日々のコミュニケーションを重視し、各種カンファレンスの導入など工夫を行っている。
- ・項目別に見ると、「特色ある学校づくりを進めるために、教育内容の充実に努めるなど、学校独自のカラーを出しているか」という質問に対する評価は平均値を上回る。
これは両科合同で研究発表会を開催し、学科間の連携授業を行うことで、学修成果が確認できるように進み始めている事は各教員の努力が伺え、両科の特色を理解し二科有する強みとなっている。
- ・「組織間や各部署間の連携が適切に図られているか」という質問に対する評価は、学校経営に関する項目の中で最も低く、「組織運営や意思決定システムが明確で効率的であるか」という質問に対する評価も、全体の平均値を下回った。この点については、体制の整備が進みつつあるものの、職員が関与しない部分もあり、評価が低い状況があるが、今後職員が理解しやすい運用システムの構築が求められる。
- ・人材の確保についてはホームページ、ハローワーク、人材派遣会社を通じて教員募集を継続している。物価高騰の中で給与等の条件については今後検討が必要であり、時間外勤務に関しては月平均数時間内の、労働環境は良好と考える。これには看護事務職やただし一部の職員に一時的に負担が掛かることがあり、改善が必要である。

II 教育課程・教育活動

評価項目
1. 教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性のある内容になっているか。
2. 卒業時において看護師・臨床検査技師としてもつべき資質を、明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。
3. 定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請・変化に合ったものに修正しているか。
4. シラバスは、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。

5. 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか。
6. 授業の一貫性を確保するため、1科目の担当者数を可能な限り少なくするとともに、担当者間の連携がとれているか。
7. 効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。
8. 未履修科目の原因分析を教員、学生両者が実施し、対策を講じているか。
9. 学生による授業（講義・実習）評価を実施し、授業（講義・実習）の改善に努めているか。
10. 実習の目標に沿った施設の選択および学習環境・指導体制が整っているか。
11. 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で実施しているか。
12. 実習指導者と教員の役割を明確にするとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。
13. 学生指導において、人権への配慮がされているか。

平均	看護学科				臨床検査学科				全体			
	R5	3.8	R6	4.0	R5	4.1	R6	4.1	R5	4.0	R6	4.0

取り組みと課題

【教育課程編成に関すること】

看護学科

- ・新カリキュラムの運用も3年目を迎え、実習に向けた演習や学習を充実させるとともに、グループワークや振り返りの時間を豊富に取り入れ、実践力と他者と協働する力の育成にも力を注いだ授業を行っている。

また、複数教員による担当科目では、定期的な打ち合わせや授業内容の見直しを通じて、授業の質の向上と統一感のある運営が図られており、教育の質を高めるための協働体制が着実に進展している。

- ・時間割編成においては、各科目の関連性や学習の流れを意識した構成が求められる中、外部講師の調整や再履修科目の対応など、昨年度に続き、柔軟な調整が求められる場面も多かった。特に今年度は、例年に比べて再履修者の多い科目もあり、よりきめ細やかに全体を見据えた時間割編成が実現された点は、今後の調整にも活かせる経験となった。

臨床検査

- ・評価の公平性と妥当性が保ち、効果的な授業運営を図るために適切な時間割を調整し、授業評価を通じて改善に努めており、さらに施設や学習環境が整っていることが高く評価している。
- ・学生の自主性および自己研鑽力を育むことを目的としてカリキュラムの見直しを行い、総時間数を3,600時間から3,010時間まで減らした単位制を導入して2年目を迎えた。これまでの学年制と比較して、一人あたりの再試験の数や未習得科目の数および人数は、評価方法の見直しもあり、ともに減らすことができた。再試験の数や未習得科目の数の減少が、実力を伴った減少となっているのか、検証を行う必要がある。

【実習に関すること】

看護学科

- ・2024 年度より導入したクラウド臨地実習支援システムについては、学生から「記録が見やすい」「記録作成がスムーズになった」といった肯定的な声が多く寄せられ、記録作成に要する時間の短縮や生活リズムの安定にも好影響をもたらしている。これにより、実習における学びの質の向上にもつながっている点が大きな成果である。
- ・一方で、通信環境の整備については今後の改善点として捉えられており、現在はモバイル Wi-Fi のレンタルを学校が支援している。今後は、実習施設に対して Wi-Fi 環境整備の協力を働きかけることで、より持続可能な運用と経費の効率化を目指す予定である。この取り組みを通じて、実習環境のさらなる充実を図っていきたい。

臨床検査学科

- ・2024 年度は、1. 必ず実施させる行為、2. 必ず見学させる行為、3. 実施させることが望ましい行為、4. 見学させることが望ましい行為の実習内容が規定された指定校規則変更後の 3 年生が行う初めての臨地実習となった。しかし、2023 年度中に 2024 年度の臨地実習に向けた臨地実習施設連絡会を実施し、各臨地実習施設に連絡・相談していたこともあり、大きな混乱もなく運用することができた。
- ・学生の状況把握や連絡・相談の手段として、昨年度より Teams の共有ファイルを利用した日々の実習記録作成および金曜の学校登校日を実施している。この取り組みにより、コロナ感染や体調不良による欠席学生が一部、見受けられたが、担当教員が 1 人 1 人の学生の状況を確認し、実習施設の指導者と連絡を取りながら学生をフォローすることで、3 年生全員、臨地実習を修了することができた。但し、Teams の共有ファイルの記入が少なく状況を捉えにくい学生も見受けられることから、そういった学生に対応するためには、学校登校日の日数を増やすことの検討をしていく必要がある。
- ・患者への倫理的配慮は、独自のガイドラインとしては整理されておらず、臨地実習全体のガイドラインに記載している。倫理的配慮の重要性を踏まえると、今後、より明確な指針を示し整理と修正が望ましいと考えている。

【授業に関すること】

看護学科

- ・領域横断科目においては、複数教員が関わることで一部の学生から「内容がわかりにくい」との意見もあったが、昨年度より教員間の連携が着実に進み、授業全体の一貫性が向上している。今後は、より円滑な情報共有や担当教員数の調整を行うことで、学習効果のさらなる向上が期待される。
- ・看護技術演習では、昨年度に比べ学生 80 名を 40 名ずつに分けて実施する内容がより精選された。多様な背景をもつ学生達の中で、個別対応の工夫が求められる場面もあったが、今後も集団での学びにおける意識づけや学習姿勢の安定・定着を図りたい。
- ・授業評価は無記名の Google フォームを活用して実施し、不適切な記述の減少など一定の成果が見られた。一方で、回答率の向上が今後の課題であり、より効果的な周知方法や実施タ

イメージの工夫を図ることで、学生の声をよりの確に授業改善へ反映できるよう取り組んでいく。

臨床検査学科

- ・『未履修科目の原因分析を教員、学生両者が実施し、対策を講じているか。』という項目に対する評価は3.89であり平均値を下回った。再試験の対象となった学生に対しては補習や課題の提供といった対策を講じたが、より一層の成果が求められる。また、学生からの授業評価については、看護学科と同様、無記名のGoogleフォームにより実施しているが、実力を伴った学修として評価を行うことも、これからの課題として取り組んでいく必要がある。
- ・卒業時に、もつべき資質については、新入生のオリエンテーションを両科合同で実施することができ、ディプロマポリシーとともに、学生に伝えることが出来た。次年度は新カリキュラムによる学生が卒業を迎えるので、総括的評価を行いたい。

Ⅲ. 入学・卒業対策

評価項目																
1. 学生募集のための広報資料の表現・内容ならびに広報活動の方法・時期は適切か。																
2. 学校案内・募集要項の内容は、志願者が必要とする情報が掲載されているか。																
3. 学校説明会・オープンキャンパスの時期・内容は適切か。																
4. 入学者選抜の時期・方針・方法は適切か。																
5. 志願者状況・定員充足率はどうか。																
6. 国家試験対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいるか。																
7. 国家試験の合格率は、年度目標値に到達したか。																
8. 中途退学者を少なくする工夫・努力をしているか。																
9. 卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R5	4.3	R6	4.6	R5	4.1	R6	3.9	R5	3.5	R6	3.8	R5	4.0	R6	4.1
取り組みと課題																
【応募者確保に関すること】																
学校全体																
・広報担当職員を3名配置し、様々なツールを用いて積極的に広報活動を行った。またオープンキャンパス・学校説明会・入試説明会・夜間学校見学会・LINE相談会等も定期的に行い、看護学科は令和7年度入学生よりA0入試を導入した。結果として看護学科は定員を満たし、検査学科は定員割れとなった(看護学科87名+検査学科42名にて充足率91.4%)。 ・令和8年度入試では新たに、学生生活の費用等を負担軽減し、3年間の学業に専念することを目的とした「病院奨学生入試(看護学科)」及び、大学入試共通テスト受験生を対象とし、当受験票を提出することで本校への受験が可能となる「大学入試共通テスト入試(両学科)」を実施する。入試内容は共に書類選考・面接シート記入・面接となる。																

看護学科

- ・AO入試により定員の半数を確保でき、高校訪問やガイダンス参加を通じて高校との信頼関係を築いた結果、指定校推薦での入学者が増加した。また、AO入試や推薦による**早期の進路決定が加速**しており、現役生の一般入試受験者や社会人入学者は減少傾向にある。
- ・新法人事務局（大宮駅西口徒歩3分）にて定期的に学校説明会を実施し、オープンキャンパスや入試対策講座へ誘導し、受験に繋げる方策を計画している。（看護・検査）。

臨床検査学科

- ・令和7年度入学生より定員を満たすことが出来ず80名⇒60名に定数変更に至った。
- ・AO、公募はほぼ横ばい。指定校が増加し、一般が両科共に減少した。

【質の高い卒業生の輩出に関すること】

看護学科

- ・令和6年度は、定員80名体制となって初めて迎えた国家試験実施年であり、合格率は93.8%と全国平均を下回る結果となったものの、多くの学生が目標達成に向けて努力を重ね、健闘した年となった。教職員は、模擬試験の分析をはじめ、放課後のミニ講座の開催、さらには年末年始（1/1～3を除く）や土日の学校開放など、学習支援に取り組んだ。加えて、学生の特性に応じた個別支援を通じて、教員間の連携にサポート体制が構築された。
- ・一部の学生には「学校に来ていれば安心」という受け身な姿勢も見受けられたが、これは学習環境の安心感の裏返しとも捉えられる。今後も、学生一人ひとりの学習状況をより的確に把握し、主体的な学びを促進するための支援体制をさらに工夫・充実させていくことで、より高い成果につなげていくことが期待される。

臨床検査学科

- ・2023年度3年生のデータを用いて、性格検査GETと適性検査SPIおよびこれまでの再試験数を合わせたRTGS指数と模擬試験の結果から国家試験成績を予測したところ、国家試験の結果とかなり高い相関が確認された（RTGS指数が高いほど、成績が伸びにくい）。このことから2024年度3年生より、このRTGS指数を用いて模擬試験ごとに卒業や国家試験合格が難しい要注意学生を抽出し、学生自身にもそのRTGS指数を提示し、学習指導に当たった。最終的には、12月末よりRTGS指数が高い学生も含め、成績が厳しい学生1人1人に担当教員を配置し、個別指導を行った。その結果、国家試験の合格率は92%となり、新卒者全国平均の94.0%には届かなかったが、年度目標値の88%を上回ることができた。RTGS指数が10を超える高い学生中、半数近くは卒業・国家試験合格までいくことができたが、残りは留年や国家試験不合格となってしまった。次年度には更に教育指導法等を検討していく必要がある。
- ・評価項目中、特に、『国家試験対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいるか。』という質問に対しては4.56と高い評価が得られた。前述の成績が厳しい学生に対する個別指導等を行ったことによる教員の高い評価となり、3年生の国家試験合格率の向上と年度目標値の達成につながったと考える。

学校全体

- 看護学科

- ## 臨床検査学科

- ・中途退学については、日頃から学生の様子を気にかかけ、必要に応じて学生サポート部やスクールカウンセラーの支援を活用して、防止に努めている。前年度と比較すると、1年生の退学者数を減少させることができた。一方で、2年生の退学者数は増加した。こうした状況を踏まえ、休学者の復学支援策についてはさらなる検討が求められる。

評価項目																
1. 学生の心身面での健康管理体制が整っているか。																
2. 学習継続・学習困難の支援体制ができているか。																
3. 学生生活・進学・就職に関して学生の相談に十分にに応じているか。																
4. 卒業生に対する相談に応じ、十分に対応しているか。																
5. 学生のクラブ活動やボランティア活動などの自主活動を支援しているか。																
6. 保護者と適切に連携しているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R5	3.9	R6	4.5	R5	3.9	R6	4.1	R5	3.7	R6	3.9	R5	3.8	R6	4.2
取り組みと課題																
【学生相談に関すること】																
学校全体																
・令和6年度より学生サポート部を設置し、サポートルームにて学生相談窓口の運用を開始した。また、キャリア講座、PC基礎学力相談会、TOEIC講座、国際交流会、図書交換展示会、地域ボランティア参加、募金活動等、年間を通して企画運営し学生生活を支援した。今後は、より学生参加型の企画運営の工夫が課題となった。																

- ・キャリア支援室を設置し、誰もが情報を得られるよう地域別の求人情報や過去の就職試験受験者による報告書が閲覧できるようになっている。
- ・就職説明会を学内で実施し、就職先選択の支援を行った。
- ・キャリアコンサルタントの国家資格を有する職員が、履歴書・論文添削や面接指導などを行い就職試験に向け、手厚いサポートを行っている。看護学科は就職率 100%(進学者除く)を継続しており、検査学科も令和 5 年度就職率 82.6%に対し、令和 6 年度は 92%と上昇した。
- ・精神的支援として、カウンセラーと全学生が面談を行い、気軽に相談できる環境づくりを行った。また、毎週定期的にカウンセリングを実施し、対面や zoom での相談を行った。
- ・経済的支援として、前年同様職業訓練給付金制度・奨学金制度・高等教育就学支援制度等の活用に関して説明・相談を行い学業継続への支援を行うことができた。また、2・3 年生については成績上位者を対象とした在校生特待制度を設け、支援している。令和 7 年度入学生より、入学前に「学費・奨学金相談会」を複数日設け、対面もしくは zoom にて保護者を交えて面談し、入学後の不安軽減を図った。
- ・心身の支援として、カウンセラーと全学生が面談を行い、気軽に相談できる環境づくりを行った。また、毎週定期的にカウンセリングを実施し、対面や zoom での相談を継続している。また健康診断を 1/年実施し、感染症の確認を行い指摘事項の受診を促している。毎年校医と健康管理計画表を策定し計画的に実施している。
- ・新しく経済的支援として、令和 7 年度入学生より学校独自の国際医療専門学校授業料減免奨学金を適用することを決定した。家計基準、人物評価により 1 学年最大 4 名を奨学生とする規程を設けた。

両学科

- ・両学科において、スクールカウンセラーによる個別面談や学生サポート部の相談対応、年 1 回の健康診断を通じて、学生の心身を支える体制が整えられており、支援体制への評価は毎年向上している。職員もカウンセリングを受けることは可能になっている。
- ・一方で、学習・生活・進路に関する相談対応では、担任教員・キャリア担当・学生サポート部の連携が十分とは言えず、特にキャリア支援において対応が一部に集中する傾向が見られる。
- ・近年は、様々な背景やメンタルの課題を抱える学生も多くなっており、個別の状況に応じた柔軟で切れ目のない支援が必要である。今後は、両学科共通の課題として、教職員がより協力し合い、一体感をもって学生を支えられる体制づくりが求められる。

【学生の活動に関すること】

看護学科

- ・学生の支援制度の認知不足や利用の難しさから、支援につながらない学生も見られる。特に支援が必要な学生ほど声を上げにくく、「安心して話せる環境づくり」や、カウンセラーへの抵抗感を和らげる工夫が今後の課題である。2025 年度からは看護学科も自治会

に加入予定であり、学生主体の活動の活性化が期待される中で、それを支える教職員の関わり方も課題である。

臨床検査学科

- ・昨年度と同様7月に「学年連絡会」を実施して、保護者との連携を図っている。学生が、学校のことについて保護者に話をするとは限らず、直接聞ける機会として保護者からは一定の評価を得ている。
- ・キャリア支援については、担当者への対応集中が課題である。担任との連携とともに、より組織的なキャリア教育を早期に行い、学生への早め早めの対応と意識付けを強化する必要がある。

【国際交流支援】

学校全体

- ・前期、関東福祉専門学校（カンボジアからの留学生）と、zoomにて日本語での交流を実施した。
- ・後期、フィリピンのカマリネス・スール・ポリテクニク大学と zoom にて数回交流を実施した。災害時には募金活動を実施し物資救援活動を行った。
- ・前期、タイ在住の学生と zoom にて交流を実施した。
- ・昨年に引き続き台湾へ海外研修を実施している。

【その他】

学校全体

- ・卒業後の相談にも対応しているが、継続的なつながりを保つ体制としてはまだ発展途上であり、今後は連絡手段や情報共有の方法に一層の工夫が求められる。
- ・インフルエンザ等の感染症に罹患した場合、全学生、教職員が加入している保険会社に保険請求すべく、周知を行った。

V. 管理運営・財政

評価項目																
1. 予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。																
2. 学生や教職員の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生や教職員に対しそれらの徹底を図っているか。																
3. 災害など非常時の危機管理体制が整っているか。																
4. 学校運営などに学生の意見が反映されているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R5	4.2	R6	4.5	R5	4.3	R6	4.0	R5	3.7	R6	3.9	R5	4.1	R6	4.1
取り組みと課題																
【財政に関すること】																

学校全体

- ・教職員に予算の周知を行い、HP 上で財務状況の公表も行っている。財政に関しての教職員の意識は高まってきている。経費削減については、両学科共通の消耗品の一元管理や電気代節約など意識して行動しているが、人件費増加分をカバーできていない現状にある。

【人権に関すること】

学校全体

- ・人権については、学生向けのハラスメントガイドラインや「障害のある学生支援に関するガイドライン」をホームページ上で公開しているが、学生への周知は不足している。

【危機管理に関すること】

学校全体

- ・防災訓練は通年両学科合同で実施し、災害時の非常用物品も適切に補充・備蓄されている。今後も前年度同様、近隣との協働が必要と考えられるため、地域との連携をさらに強化し、防災体制の充実を図ることが求められる。その取り組みの一環として、教職員の緊急連絡を目的とした LINE グループを作成し、円滑な情報共有を可能にした。また、令和 7 年度からは「Web ポータル」を導入し、安否確認システムを導入し活用する予定である。災害時の迅速な対応に役立つ計画や帰宅支援セットを 1 学年から導入して整えた。加えて、大災害に備え、危機管理マニュアルの見直しと教職員への共有が必要であると考えられる。これにより、緊急時の対応力を向上させ、より安全な環境を整えることを目指している。
- ・学習環境の改善にも力を入れており、毎週月曜日の朝に学生意見箱の確認を行い、寄せられた要望への回答を公開することで、より良い学びの場を提供できるよう努めている。今後も学生の声を尊重し、教育環境の向上を図っていきたい

VI. 施設設備

評価項目																
1. 施設設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造であるか。																
2. 教育目標達成に必要な施設、設備及び教材が整っているか。																
3. 学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。																
4. 図書室は適切に整備されているか。																
5. 実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整っているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R5	4.2	R6	4.6	R5	4.1	R6	4.2	R5	3.4	R6	4.3	R5	3.9	R6	4.4
取り組みと課題																
[施設・設備]																

学校全体

- ・施設、設備については法的検査を実施しており、基準をクリアしているが、現在使用しているエレベーターの部品提供が2027年12月で終了する。提供終了後に故障した場合は修理できない為、リニューアル工事を予定し改善を図るよう計画中である。
- ・バリアフリートイレを設置しており、安全に使用することが出来る。
- ・オストメイト対応トイレを設置している。
- ・1号館外壁養生工事、学生寮屋上防水工事を行い、安心安全を確保した。
- ・正門脇にセンサーライトやAEDを設置し、学生教職員・地域の方の安全確保を図り、花壇や広場を設け環境を保っている。
- ・職員駐車場も確保出来校内も広く駐輪も多数可能となっている。

【教育目標達成のために必要な施設・設備】

- ・必要な設備、教材、備品等が整っている点について教員からの評価は高い。本校のPRポイントとして強調していきたい。

臨床検査学科

- ・2023年度、学生の超音波検査学習機材としての超音波診断ファントム上腹部モデルを3台購入した。2024年から学生の腹部だけでなく、ファントム上腹部モデルも使用しながら、生理機能検査学の実習を行っているが、学生から個人差が無く分かりやすいとの声も聞かれ、特に実習試験前には、被検者を探さなくても行えることから、実習の自主学習を行う学生も増えてきている状況である。

【学生の為の福利厚生施設・設備】

学校全体

【図書室の整備】

- ・学生が活用しやすいよう司書が環境を整えている。また、学生からの要望があれば近隣の図書館と相互貸借を行い国家試験対策や、研究発表等に役立てている。
また、令和6年度は初めて桜図書館との「交換展示」を実施した。
- ・学生教職員からの要望を基に、後援会より図書187点寄付いただいた。
- ・検査学科学生の利用が少ないことは課題である。

【実習室の整備】

- ・実習室は学生数に対して十分な広さと必要な備品を備えており、実践的な学習の場として活用されている。
- ・設備や教材については現状では適切に整っているものの、医療や教育の技術進歩に伴って、今後は定期的な更新や見直しを計画的に進めていくことが必要である。学生のニーズや時代の変化に応じて、より快適で実用性の高い学習環境と、安心して過ごせる学校生活を両立できるよう、今後も柔軟に施設整備を進めていくことが期待される。

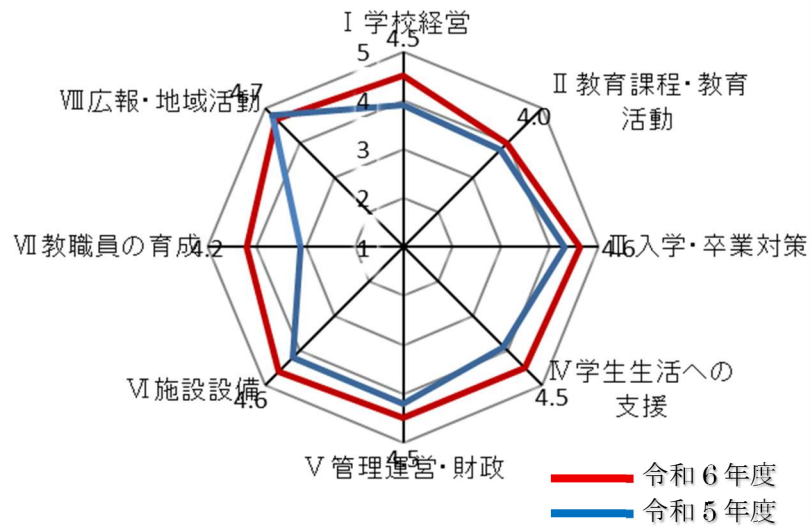
VII. 教職員の育成

評価項目																
1. 学校の抱えている課題を踏まえて職場内研修を行っているか。																
2. 学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みはあるか。																
3. 教員が計画的に研修に参加しているか。																
4. 教員が研究活動を行えるような体制が整っており、教員は計画的に研究活動を行っているか。																
5. 教員の授業を他の教員が参観し、授業の質を高めるための意見交換をおこなっているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科								全体			
	R5	3. 1	R6	4. 2	R5	3. 4	R6	3. 4					R5	3. 3	R6	3. 8
取り組みと課題																
看護学科																
- 埼玉県高等看護学校教務主任会の教育力アップ研修 A コース 2 名参加。C コース 4 名参加、発達障害のある学生支援 埼玉県高等看護学校教務主任会・埼玉県准看護学校教務主任研修参加者 11 名。ZOOM 研修多数、獨協大学付属看護専門学校 三郷校研修 6 名参加など前年度の課題でもあった教員全員が何らかの研修に参加できた。 - 研修参加後には報告会や資料共有などを通して得られた知見を学内で共有し、組織全体の教育力向上につなげる取り組みも継続して行われている。 - 教員同士の授業見学や意見交換の場面も増えており、自然な形で協力し合う関係が芽生え始めている。こうした取り組みにより、風通しの良い職場環境が徐々に醸成されつつあることは、大きな前進といえる。 - 今後の課題としては、学校全体で教育の課題や方向性をより明確に共有する体制の強化が挙げられる。特に、看護学科と臨床検査学科の間における連携が期待され、今後は両学科合同の会議や交流の機会をさらに設けることで、学科を超えた相互理解と協働体制を一層強化していくことが望まれる。																
臨床検査学科																
評価は昨年度と同様であった。日本臨床衛生検査技師会および臨床検査学教育協議会主催の学会や研修会について、教員全員が年間を通して参加できるよう計画し、実現することができた。また、認定資格更新のための講習会に 1 名の教員が参加できた。しかし、他の項目と比較して評価が低いことは昨年度と同様の傾向であり、検査学科においてはこの項目については課題である。																
事務																
入試広報担当者研修、私学共済担当者研修、年末調整セミナー、会計セミナーに延べ 4 名が参加した。今後も積極的に研修に参加し、見聞を広めたい。																

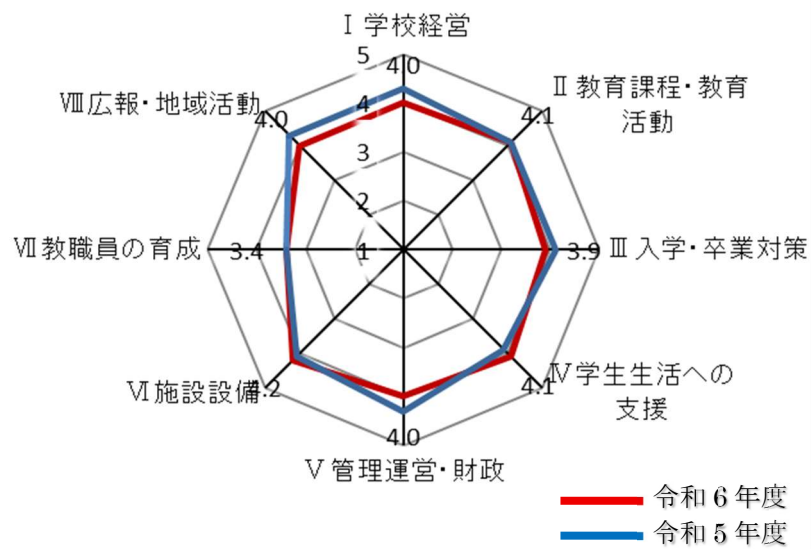
VIII. 広報・地域活動

評価項目																
1. オープンキャンパス・学校説明会で学校の魅力や特色を伝えられているか。																
2. 広報活動に関する評価を年度内に行い、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の広報活動につなげている。																
3. 地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。																
平均	看護学科				臨床検査学科				事務				全体			
	R5	4.8	R6	4.7	R5	4.3	R6	4.0	R5	3.6	R6	4.0	R5	4.2	R6	4.2
取り組みと課題																
学校全体 ・オープンキャンパスにおいて、学科説明や施設案内だけでなく、毎回内容の異なる体験授業、卒業生講話、学生との懇談といったプログラムを用意し、本校の魅力を伝えている。 ・学校公式のホームページを開設しており、年度毎に大規模更新を行うとともに、適宜最新情報への更新を実施、バナーの配置や更新により時期ごとに重点的なPR情報を実施することで、学校の存在、活動、特色等について発信し、受験生確保等に努めている。ページについてはPCサイズとスマートフォンサイズにそれぞれ合わせた表示がされるように運用し、閲覧者に見やすいサイト運営を専門業者と相談の上行っている。今後は更にスピーディーかつリアルタイムに更新していきたい。 ・ホームページだけでなくSNS（Instagram）を利用し積極的な広報を実施している。また、学内誌として「IMC JOURNAL」を作成し、情報発信した。その他、高等学校へ訪問して学校の周知、オープンキャンパス、入学試験等に関する周知等にも力を入れている。 ・さいたま市「みらくるワーク」へ協力し、地元中学である田島中学校と土合中学校を受け入れ職業体験の場を提供した。 ・台風の影響で中止となったが、埼玉県主催の「ナースのお仕事体験」に協力し、県内中高生に対して体験授業を企画した。 ・地域と連携していくことを目的として、新開小学校から2年生の地元探訪を受け入れて質問対応や施設見学を実施した。 ・併設校である浦和学院高等学校から保健医療クラスの生徒を受け入れ、看護及び臨床検査それぞれの体験学習を実施するとともに、講義に教員を派遣している。 ・広報担当、教員、学生が連携し、オープンキャンパスや学校説明会を実施した。 ・はじめて学園祭が実施できたことは地域への広報・貢献という点で良かったと考える。 ・校外ボランティア活動については、年間計画を策定するなど、今後も継続して取り組んでいきたい。 ・臨床検査技師の社会的な認知度は高くない為、当校の魅力を伝えるとともに、広く臨床検査技師に対する啓蒙的な活動も必要と考える。																

看護学科



臨床検査学科



全体

